

## 2020年10月11日 説教「ヤコブの苦悩」

創世記 42 章 29～38 節

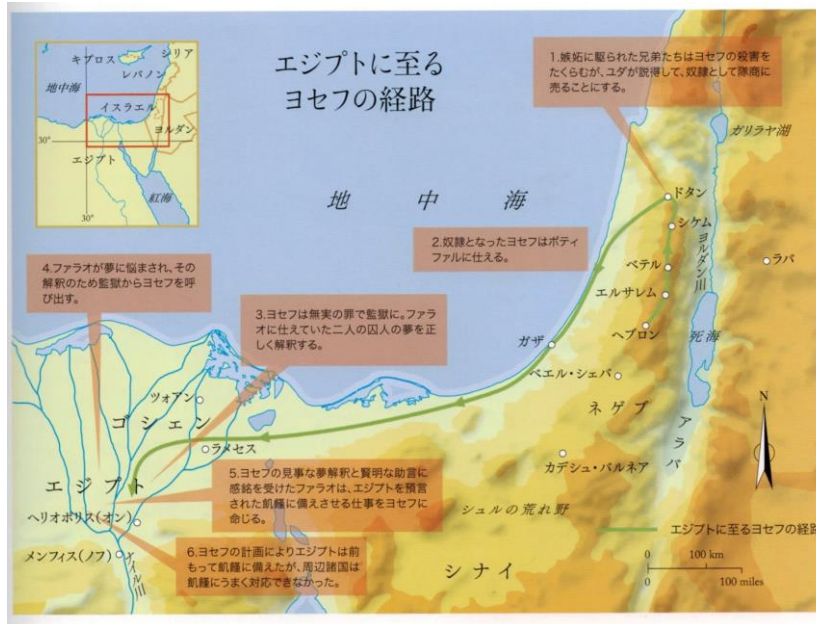
エジプトの宰相ヨセフはシメオンを人質にし、9人の兄弟たちをカナンに帰します。食糧に困窮している父ヤコブ一家を秘かに助けるためでした。

### 1. 9人は父ヤコブに報告を (29～32 節)

- ①ヤコブのもとに (29)「**こうして、彼らはカナンの地にいる父ヤコブのもとに帰って、その身に起こったことをすべて彼に告げて言った。**」兄弟たちはカナンまでの旅をして、ようやく父ヤコブの所に辿りつきました。大量の食糧を運ぶ旅でしたから、大変だったことでしょう。父の所にもどって、彼らは起きた出来事をつぶさに知らせました。
- ②父ヤコブへの報告 (30)「**あの国の支配者である人が、私たちに荒々しく語り、私たちを、あの国をうかがう間者にしました。**」報告の中で、彼らはエジプトの宰相が、自分たちには厳しく、荒々しく接し、自分たちを間者だと疑ってかかってきたことを伝えました。
- ③報告内容 (31～32)「**私たちはその人に、『私たちは正直者で、間者ではない。私たちは十二人兄弟で同じひとりの父の子で、ひとりはいなくなりましたが、末の弟は今、カナンの地に父といっしょにいる』と申しました。**」兄弟達はスパイだと疑いをかけられ、身に覚えがないと弁解したこと、自分達は不正を働く者たちではなく、12人兄弟で、一人はなくなってしまったこと。一番下の弟(ベニヤミン)は父の所にいる事を伝えたと、父ヤコブに報告しました。最後の報告についてヤコブは余計なことを教えてしまったと思ったようです。

### 2. 末の弟を連れて来いという命令 (33～35 節)

- ①支配者の反応の報告(33)「**すると、その国の支配者である人が、私たちに言いました。『こうすれば、あなたがたが正直者であるかどうか、わかる。あなたがたの兄弟のひとり私のところに残し、飢えているあなたがたの家族に穀物を持って行け。』**」兄弟たちの説明を受けて、エジプトの宰相は、彼らに飢えている家族のために、一人の人質を残した上で、穀物を持ってカナンの地に帰るようにと命じられました。そうした報告を、ヤコブの息子達は伝えました。
- ②末弟を連れて来い (34)「**そしてあなたがたの末の弟を私のところに連れて来い。そうすれば、あなたがたの間者ではなく、正直者だということが私にわかる。そのうえで、私はあなたがたの兄弟を返そう。そうしてあなたがたは、この地に出はいることができる。』**」宰相(ヨセフ)の条件はもう一つあって、それは末の弟(ベニヤミン)を連れて、戻って来いということでした。それが、彼らが正直者であることの証明となるということです。そうするならば、人質の兄弟(シメオン)も返してくれるということです。エジプトにも自由に往来できるようになるということです。兄弟達は父ヤコブに、ぜひベニヤミンをエジプトに連れていくことについて、理解してくださいと訴えました。



③銀が荷物の中に(35)「それから、彼らが自分たちの袋をからにすると、見よ、めいめいの銀の包みがそれぞれの袋の中にあるではないか。彼らも父もこの銀の包みを見て、恐れた。」さて、もう一つの難題が発覚しました。エジプトから持ち帰った彼らの荷物を検めてみると、9人の荷物のそれぞれの袋の中に銀の袋が入っていたことです。穀物購入のために出したはずの銀が、そこに戻っていたのです。子供達だけではなく、ヤコブもこれには驚き、恐れたのです。このことで不正を働いたと責められるのではと考えたからです。

### 3. 父ヤコブへの説得(36~38節)

①ベニヤミンまでも(36)「父ヤコブは彼らに言った。『あなたがたはもう、私に子を失わせている。ヨセフはいなくなった。シメオンもいなくなった。そして今、ベニヤミンをも取ろうとしている。こんなことがみな、私にふりかかってくるのだ。』」さて、父ヤコブはヨセフを失った上に、今回はシメオンも人質になり、ベニヤミンまで取られてしまうかもしれないということになり、苦悩します。自分にふりかかった問題が、子供達すべてを巻き込みながら、ますます難しくなりそうです。飢饉の中とはいえ、エジプトに子供達を送らねば良かったかもしれないなどと悔いたかもしれません。

②ルベンの必死の要請(37)「ルベンは父にこう言った。『もし私が彼をあなたのもとに連れて帰らなかつたら、私のふたりの子を殺してもかまいません。彼を私の手に任せてください。私はきっと彼をあなたのもとに連れ戻します。』」しかし、長男ルベンは必ずベニヤミンを連れ戻すので、行かせてくださいと頼み込みます。この聖書箇所から、ルベンは結婚して二人の子供がいたことが明らかになります。その二人の子供を差し出して、ベニヤミンが戻れない場合は、子達をどうにでもしてくださいと伝えたのです。ヤコブにとっても、かわいい孫たちですから、殺せるはずないのですが、そのぐらいの覚悟ですと頼むルベンは、今でもヨセフを売ったことを気にしているようです。

③白髪頭の私を(38)「しかしヤコブは言った。『私の子は、あなたがたといっしょには行かせない。彼の兄は死に、彼だけが残っているのだから。あなたがたの行く道中で、もし彼にわざわざいふりかかれば、あなたがたは、このしらが頭の私を、悲しみながらよみに下せることになるのだ。』」ルベンのたつての願いでしたが、父ヤコブはそれを受け入れるわけにはいきませんでした。ベニヤミンは行かせてしまつては、もう誰も残らない。エジプトでどんなことが起こるかかわからないのは、言うまでもなく、その途上でも何か事故が起こるかもしれない。そんな危険を冒すことはできない、という訳です。そんなことになれば、白髪頭となった自分は、悲しみのうちに死んでいくことになってしまうのだから、それは受け入れられないというのです。

《結論》ヨセフの生涯に焦点が合っていますが、実をいうと37章以下はヤコブの生涯の続きでもあるのです。「これはヤコブの歴史である」(37:2)とある通りです。そして、今朝の聖書箇所はヤコブにぴったりと照準が合った記事です。ヤコブは飢饉でカナンへの地にも食糧事情が悪化した事で、10人の息子達をエジプトに送り出しました。かの地では食糧が確保されているという情報が入っていたからです。ところが派遣した息子達が帰ってみると、食糧は持ち帰ったものの、息子シメオンが人質にとられていました。おまけに、妻ラケルとの間に生まれたベニヤミンを、次回には連れて来いと、エジプト総理大臣は命令したというのです。さらには、息子達が支払いに用いたはずの銀が彼らの荷物のなかに戻されてあつたというのですから、なんとも理解できない事態が生じ、恐れや不安がヤコブの心の内にやってきました。振り返れば、特別に愛したヨセフは、兄達の所に使いに出した時に、いなくなるという出来事があり、ヤコブは長年にわたって辛い日々を送ってきたのです。振り返れば、それより前には双子の兄エサウを欺き、北の地に行き苦勞をして、20年後によくしてカナンにもどり、エサウと和解。彼は息子達を育てあげて信仰の継承をすることが課題でありました。ところが、その期待の星であつたヨセフはいなくなり、ベニヤミンは絶対に離したくない息子であつたのです。

今や頭も白くなり、体力も落ちて来たころですが、ヤコブにとっては新しい試練がやってきたこととなります。ヤコブは苦悩することになるのです。少し頑固なほどに、ベニヤミンを離さないというところに、彼の心の内にあらわれています。

家族が失われるという試練は、余人には想像ができないことです。横田早紀恵さんは、新潟在住時代に中学生であつた娘のめぐみさんを拉致されてしまいました。拉致とわかるのは後になってからですが、突然と娘が姿を消すという状態を受けとめることは難しかったです。彼女は旧約聖書のヨブ記から学ばされたとのこと。財産や家族を失つたヨブの信仰から学ばれたのでしょう。やがて、新潟の亀田にあつた教会で洗礼を受けられました。拉致がわかつてからは、家族会の中心的存在として働いておられることはよく知られているところです。早紀恵さんの確信に満ちた姿勢の背景にはキリスト教信仰があつたのです。

ヤコブは今、試練の真っ只中にありました。20年のパダン・アラムでの生活やその過程で、信仰体験を与えられ、試練を越えさせられてきたヤコブですが、ここに来て、その弱さが現れています。でもある面では、私たちはほつとします。なぜなら、信仰者は年をとつても失敗をしたりする弱い存在であることを学べるからです。「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。」(ローマ12:12)という新約聖書の勧めは、ヤコブにも促されているとともに、私たちにも教えられているのです。弱い私たちですが、神の愛に導かれながら、永遠の望みをいただき、

試練に耐え、祈りつつ進んでいこうではありませんか。